

# 『栃木の在村記録』

## 幕末維新期の胎動と展開』第一巻

### 岡田嘉右衛門親之日記(一)

天保十年(1844)～  
安政六年(1859)

編 田中正弘

(國學院大學  
栃木短期大学教授)

#### 目次

|        |                        |
|--------|------------------------|
| 解題     | 岡田家所蔵日記の翻刻と<br>刊行までの経緯 |
| 第一章    | 岡田嘉右衛門家の系譜と<br>歴代当主    |
| 第二章    | 岡田親之の事績について            |
| 第三章    | 地頭畠山氏の家臣団と陣<br>屋役人     |
| 第四章    | 日記記事の補足的説明             |
| 第五章    | 史料                     |
| 衛門親之日記 | 天保十五年～安政六年、岡田嘉右        |

#### 販売

B5判 九〇〇頁  
定価 六、〇〇〇円

栃木市教育委員会

生涯学習部 文化課

(栃木市役所 四階)

月～金曜日

午前九時～午後五時

Tel 〇二八二(二二)二四九七

岡田記念館

土日月祝日のみ開館

午前九時三十分～午後四時三十分

Tel 〇二八二(二二)〇〇〇一



岡田家は栃木市の旧家のひとつです。当主は代々嘉右衛門を襲名しその名は現在の栃木市嘉右衛門町の由来ともなっています。

岡田家の当主達は江戸時代中期か膨大な量の日記を遺しました。

江戸幕末、尊王攘夷に揺れ動き、変革の幕開けを迎えようとする時代の空気は、旗本畠山氏の陣屋をかまえ代官職を代行した岡田嘉右衛門の手により日記に写し取られ、今日まで伝えられています。